

南陽市

はくりゅうこ

白竜湖

み
水

ど
土

り
里

ウ
オ
ー
ク

原風景が見られる伝説の湖

白竜湖は、置賜盆地の北東部に位置する湖で、古代の置賜盆地に広がっていた湖の名残とされている。荒地であった白竜湖周辺は、江戸時代初期から開田された記録が残っており、その後も排水事業や区画整理など農地整備が行われ、白竜湖は農業用水の水源として利用されてきた。

白竜湖のある一帯「大谷地」は、約1000haにもおよぶ泥炭湿原であり、かつては高山植物が生育するなど、その特異な自然環境から県指定天然記念物に指定された。しかし、近年は周辺環境の変化により多くの植物が姿を消し、泥の堆積による湖面の減少もあって、今世紀中の消滅が危惧されている。これを受け、南陽市では「白竜湖」再生プロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングを活用して大量に繁茂した水草の「ヒシ」の刈り取りを行った。また、白竜湖の保存・活用に向け、水質や植生などの学習会や調査も行っている。

「白竜」の名前の由来には複数の説があり、南陽市の文化施設である「夕鶴の里」では、白竜湖に関する伝説や、地域に残る民話を継承する活動が行われている。

地域に親しまれ様々な伝説が残る湖と、周辺の山々に並ぶぶどう棚や田園が調和している「ふるさと」の原風景を訪ねてみてはいかがだろうか。



① 南陽市展望コーナー

白竜湖と田園が一体となった風景を一望できる

白竜湖に残された伝説

- ・赤湯の東正寺の若い僧に恋をした娘が添い遂げられないのを悲しみ、湖に身を投げ、白龍となって天に昇ったことから名付けられた。
- ・あるとき日照り続きで水争いまで起こるようになってしまった。村人の雨乞いも効果がない。そこへ旅の僧がやってきて天に向かって三日三晩経文を唱え、やがて雨が落ちてきて、湖から白竜が巻物をくわえて天に昇っていった。
- ・杵を洗おうと家の前の種池に浮かしていたところ、7日後、白竜湖に浮かんでいるところを見つけた。置賜の池の底はすべて白竜湖に通じているという。

(出典：南陽市市史 民俗編)

白竜湖周辺マップ



② 南陽スカイパーク

パラグライダー施設として整備されており、フライト体験もできる。(要予約)



④ 烏帽子山八幡宮

表参道正面にある、日本一の大きさである継ぎ目のない一本石の大鳥居は必見。



③ 赤湯温泉

開湯 930 余年の歴史を誇る温泉町“赤湯温泉”。公衆浴場として“湯こつ”が令和 4 年にオープン。